

令和2年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日時: 第1回 2020年11月25日(水) 13:00~17:00

第2回 12月9日(水) 13:00~16:00

場所: 学内:兵庫県立大学 明石看護キャンパス(演習室 406)

学外:兵庫県立大学遠隔講義室(Zoom)

テーマ: 地域に根差したがん患者の専門的緩和ケア

第1回 抑うつ、不安、せん妄にどう対応するか、臨床疑問をどう解決するか? 私の作法

第2回 つらさのスクリーニングと包括的評価、地域緩和ケアを考える(人口30万人の地域でどのように専門的緩和ケアを組み立てるか?)

講師: 木澤 義之先生(神戸大学大学院特命教授)

受講者: 12名(各回6名。うち、各回とも4名学外)

アンケート回収:4名(回収率66.7%)

主催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布敦子



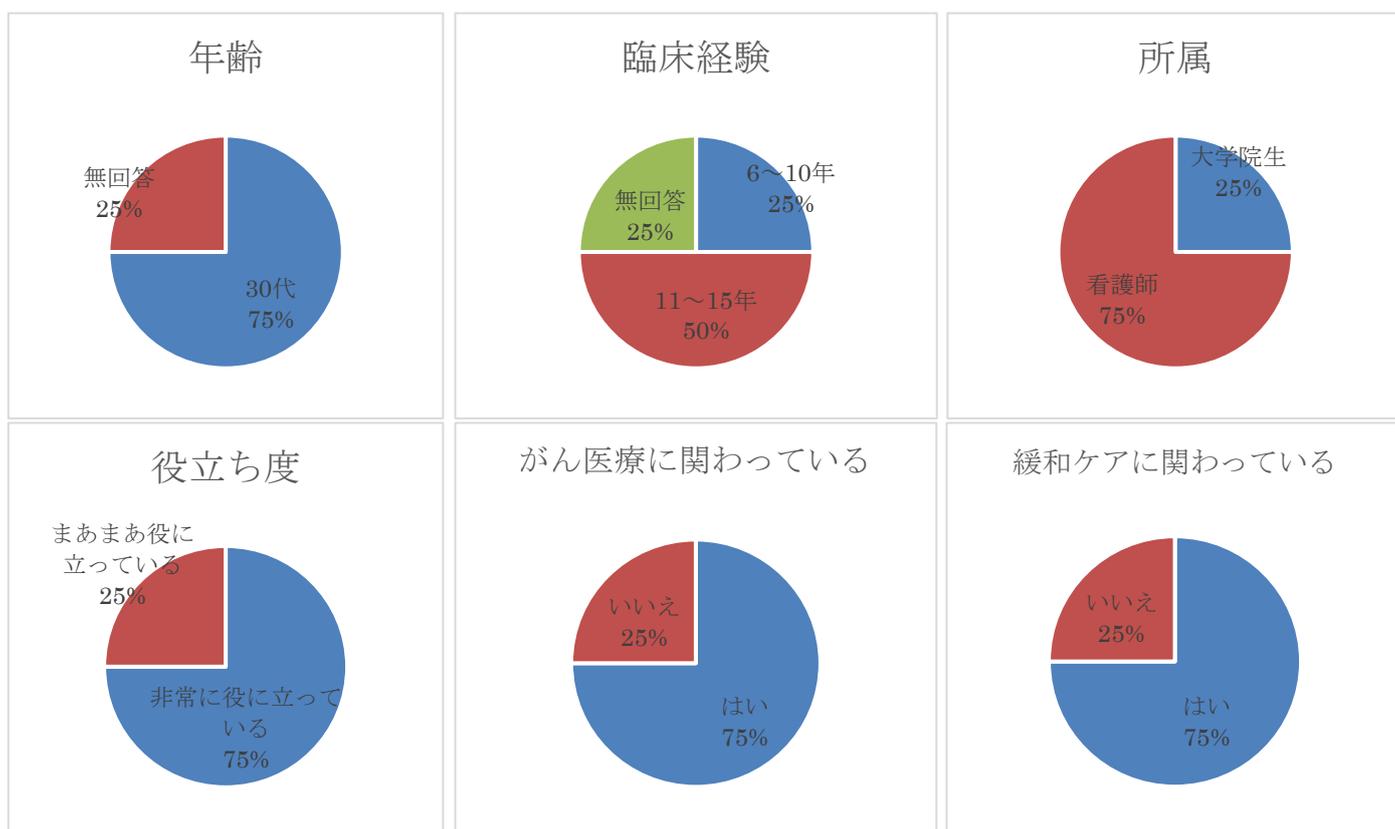
<概要>

神戸大学大学院特命教授 木澤 義之先生から、地域に根差したがん患者の専門的緩和ケアと題して、第1回は臨床において抑うつ、不安、せん妄にどう対応していくか、第2回は地域として緩和ケアをどう考えるかについての講義でした。基本的な考え方や定義をおさえた後、具体的な症例をもとに「よくある質問」といったわかりやすい切り口でご説明頂き、環境調整や安全確保、家族への説明などにも触れ、どのようにどこまで臨床で対応できるかを深く考えることができました。さらに人口約30万の都市を例として、地域で緩和ケア医療を構築していく方法についてもご説明があり、違った視点での緩和ケアの考え方を学びました。

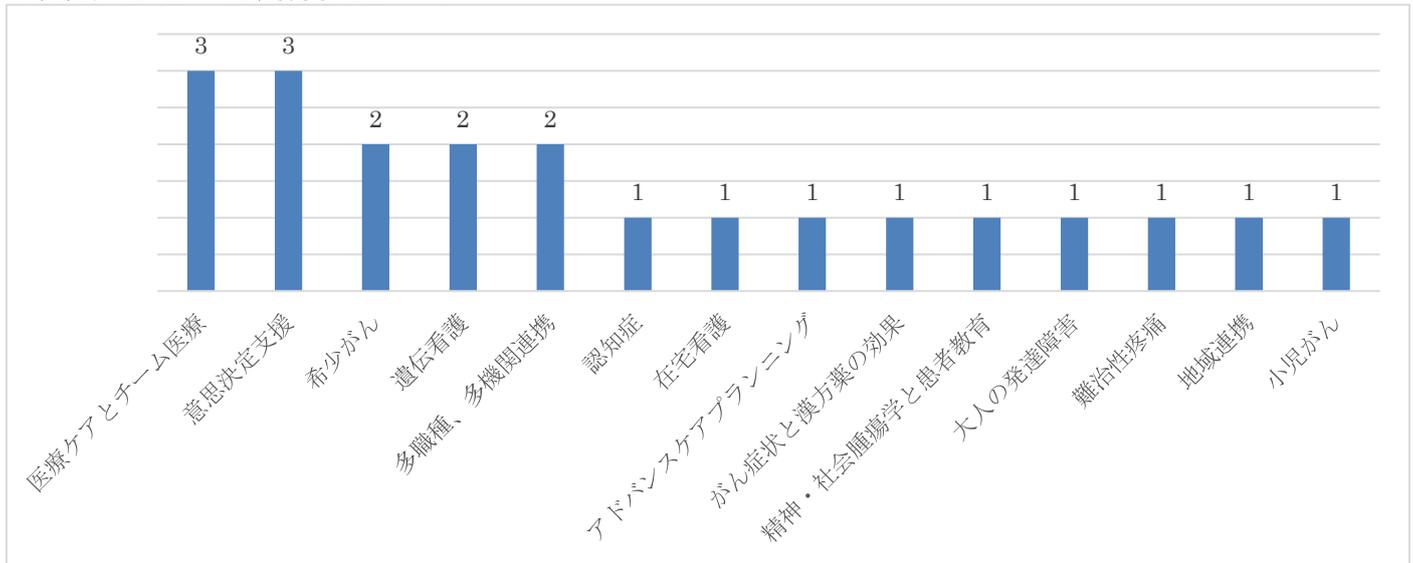
また、各回の終わりには、課題として持ち寄った、参加者それぞれが臨床で抱えていた問題について、先生からの具体的なアドバイスをいただきながら、どう考えるか、何ができたかなどを検討し、緩和ケアについて多角的かつ論理的にとらえることを学ぶ有意義な時間となりました。

<アンケート結果>

●参加者について



●今後、セミナーに期待するテーマ



●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ・臨床において抑うつ、不安患者へのアプローチに悩む機会も多かったが、抑うつ気分アルゴリズムや不安アルゴリズムについて拝聴し、医師と患者様の情報共有や治療の調整を図る際に非常に有用であると感じました。又、せん妄についても事例を基に丁寧にご説明頂き、患者様を目の前にした際に鑑別を挙げ対策を具体的にどのように検討していくべきかがよく分かりました。
- ・今回のテーマである不安、抑うつ看護で悩む事が多くアルゴリズムを教えて頂き今後、活用したいと思いました。又、不安を抱く患者様に対していつかは楽になるという事を伝える事が大事であるという言葉が印象に残りました。何とか気持ちの辛さが楽になる様にサポートできないかと悩む事が多くサポートする側の私も救われた言葉でした。
- ・緩和ケアの質評価について学びました。地域の実情を把握するにはどうしたらいいか、いつも悩みますが、やはり、地域の方々と話し合える関係作りを丁寧に継続して行くことが大切だと再認識できました。
- ・今日本の課題であるとも言われていた継続的な患者さんへの関わりについて

▼緩和ケアにおいて、今、最も強く感じている課題をお書きください。

- ・多職種でのチームアプローチや地域連携の困難さを感じております。
- ・緩和ケアやホスピス病棟での勤務が長く、ケアに悩む事や自分のケアに必要な情報は日々、医師やコメディカルとカンファレンスが行っていたり、自分自身が辛い時にチャプレンに話を聞いてもらったりグリーフケアをしてもらう事が多かったです。訪問看護をする様になり緩和ケアを必要とされる方とご家族の生活の中に入りサポートさせて頂く事は病棟では知る事の出来なかった関わりが出来ていると感じますがサポートするスタッフ間のコミュニケーションの難しさを痛感しています。
- ・特に主治医が病院の医師の場合、連絡を取り合うのが難しい事が多く在宅医によっても夜間や休日は連絡が取れないなど差があります。
- ・看護師間でも看取りの経験が少ないスタッフは看取りが近くなった時の声かけや家族のサポートなどが分からず看取りを迎える方も多くいます。
- ・デスカンファレンスも少なくスタッフ間でのグリーフケアも課題だと感じています。
- ・今後、在宅療養や看取りが増える中でメディカルケアステーションなど連絡を取り合うツールが出てきていますが、病院や他施設との連携がスムーズに行え、入退院を繰り返す方も継続してサポートを行える環境を整える事が課題だと感じます。
- ・地域の拠点病院さんが地域に緩和ケアを普及していくには、まだまだ人的資源的金銭的に余裕がないようです。
- ・患者の周りを囲む医療者と継続的なケア提供。

▼その他感想

- ・今回、がん看護専攻の講義を聞かせて頂く貴重な機会を頂き、日々悩んでいる質問に対してもご教授頂きとても勉強になりました。全ての講義に興味がありすべて受講したかったのですが勤務の都合上、1講義しか受けられないのが残念です。